

低地ラオスの異なる経済的・生態学的環境における出産年齢女性の栄養状態

新潟医療福祉大学 健康科学部 村山伸子  
 福岡県立大学 看護学部 夏原和美  
 東京大学大学院 医学系研究科 佐々木敏  
 総合地球環境学研究所 小坂康之  
 立教大学 文学部 野中健一

National Institute of Public Health, Vientiane, Lao P.D.R.  
 Phonglusa K., Sithideth D., Luangpraxay C.,  
 Vongraseuth N., Mounchalack B., Thongmalayvong B.,  
 Phronmala S., Mounsoulisack S., Kounnavong S.

【背景】

東南アジアにおいては、途上国型の栄養転換、すなわち食事や身体活動量の変化にともなう肥満や生活習慣病と同時に、低栄養（やせ）や微量栄養素の不足 (Double burden of malnutrition) がみられ、大きな課題となりつつある。出産年齢女性においては、自身の健康と同時に子どもの健康状態にも影響するため特に問題となる。

本研究グループでは、2004年より東南アジアでも最も所得が低く、乳幼児死亡率が高いラオスにおいて、環境と母子の食事、栄養状態、健康状態の調査をおこない、Double burden of malnutritionの実態を確認してきた。2004年～2007年度は南部の森林が少ない地域、多い地域の2地域で調査を実施してきた。2008年度は、首都ビエンチャン近郊の地域で調査をおこなった。本報告では経済的・生態学的環境が異なる3地域の出産年齢女性の栄養状態について報告する。

【方法】

1) 対象地域・調査時期・対象者数 (Fig. 1)

3地域とも低地ラオスに位置し、調査時期は雨季、対象者は村に在住する19-40歳の女性全てに調査依頼し、応じた人を対象とした。①Huay San area in Xepon district in Savannakhet province, 2006年9月96人, ②Lahanam area in Sonkhon district in Savannakhet province, 2005年8月87人, ③Dongkway area in Vientiane municipality, 2008年10月116人。

2) 調査内容・方法

①栄養状態：身長、体重、皮下脂肪厚、血圧、ヘモグロビン値を実測した。②生活状況：質問紙を用いた面接法で調査した。③環境：市場経済化の指標として店の数、自然環境の指標として森林面積、土地利用。

【結果】

1) 3村を合わせたラオス農村の栄養状態

低体重 (Body Mass Index: BMI < 18.5kg/m<sup>2</sup>) 者は8.4%, 過体重 (BMI ≥ 25.0kg/m<sup>2</sup>) 14.4%, 貧血 (ヘモグロビン < 11.0 mg/dl) 者は18.1%であり、Double burden of malnutritionの実態がみられた。

2) 経済・生態学的環境が異なる3地域の比較

低体重と過体重者の割合は、Lahanam area で他の2地域より若干高かったが有意差はみられなかった。ヘモグロビンの平均値は有意な地域差がみられ、Dongkway area が最も低く (11.8mg/dl), Huay San area が最も高かった (13.2mg/dl)。

3) 3地域の生活状況、経済・生態学的環境

Huay San area: 商店3, 焼畑, 野菜栽培, 自給用に森林利用, 収入少ない。

Lahanam area: 商店37, 朝市あり, 稲作と米販売が中心で, 自給用の森林利用は少ない, 収入多い。

Dongkway area: 商店約10, 首都との物流あり, 販売用に森林利用, 収入多い。

【考察】

ラオスにおける栄養転換の現状が確認され、低体重者1割より過体重者1~2割が多いが、同時に貧血も2割みられ、今後は過体重と貧血が1人の中で同時に発生しているのか、さらにその要因を検討する必要がある。

経済的・生態学的環境と栄養状態との関係では、市場経済化が最も進んでいなく、自然環境 (森林) 利用が多いHuay San area で、適正体重者が多く、貧血が少なかったことから、Huay San area での栄養適応のメカニズムを解明することで、ラオスにおける食を通じた自然と人間の健康の共生の在り方の根拠が得られると考えられる。

Acknowledgement

本研究は、総合地球環境学研究所 “Eco-Historical Study in Monsoon Asia 2003-2008” headed by Professor Tomoya Akimichi の一部として実施された。また、新潟医療福祉大学研究奨励金 (2007年, 2008年), トヨタ財団助成金 (2007年~2009年) を受けて実施した。

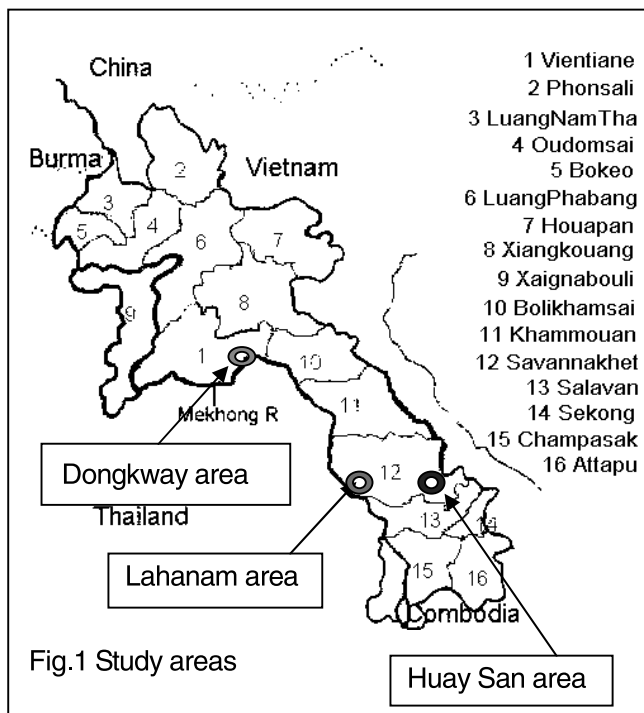


Fig.1 Study areas